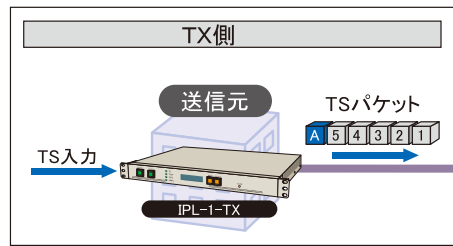
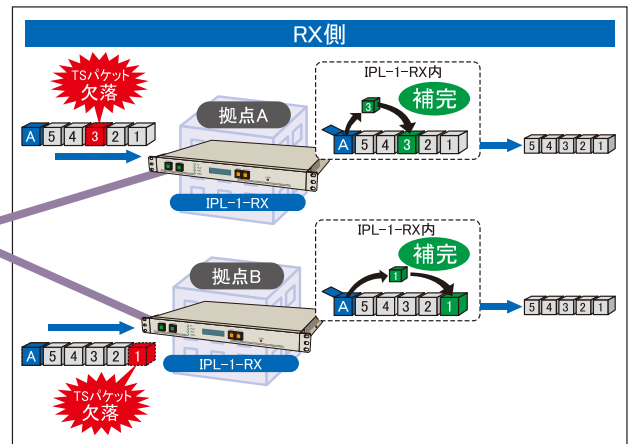


## 前方誤り訂正機能(FEC)搭載

IP網でパケット抜けが発生した場合、オリジナルプロトコルによる前方誤り訂正 (FEC)により欠落した部分を補完して動作が可能です。



伝送するTSパケットを $n \times n$ の個数でブロック化し、ブロック毎に $n$ 個のA FECパケットを伝送します。送信が単体 (TX側) で受信が複数ユニット (RX側) の伝送を行う場合に、伝送網でIPパケットの欠落が発生した場合でも、RX側からの再送要求パケットを送る必要がないため、TX側に処理負荷がかからずに済みます。



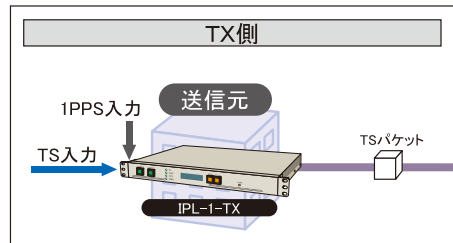
再送処理機能 (ARQ) 搭載・・・1対1の場合はARQが利用可能です。

## 遅延機能

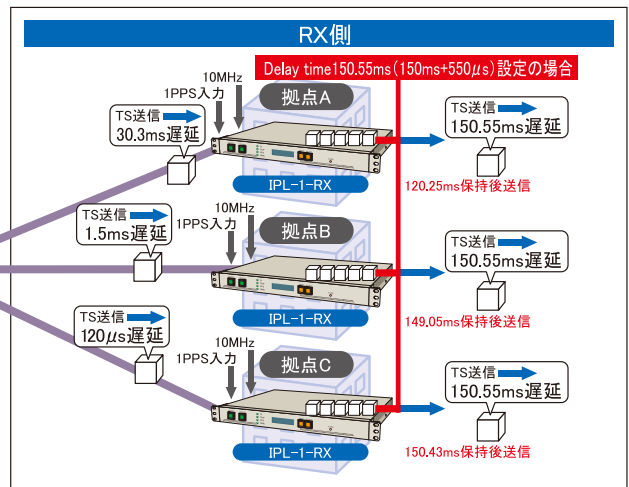
1PPS信号に同期/非同期での遅延設定が可能です。

### 同期遅延制御

TX側に入力されるTSパケットと、RX側から出力されるTSパケットを比較した出力遅延時間は、IP網による伝送遅延時間に関係なく、設定されたディレイ時間 (RX側のDelay time設定) によって決まります。

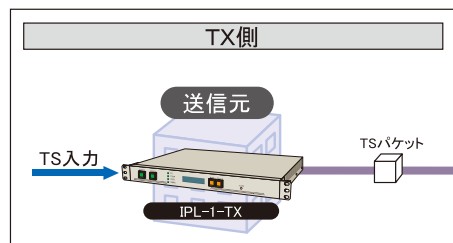


Delay time設定可能な値の範囲は、[IP伝送による遅延時間] から980ms (※)まで可能です。  
※再生機能のON/OFF、入力するTSパケット (NULLパケットの場合) によって、動作可能なDelay time設定の範囲は狭くなります。



### 非同期遅延制御

RX側がTSパケットを受信した時刻から、設定されたディレイ時間 (RX側のDelay time設定) を経過した後、TSパケットの出力を開始します。



TX側に入力されるTSパケットと、RX側から出力されるTSパケットを比較した出力遅延時間は、IP網による伝送遅延時間と設定されたディレイ時間 (RX側のDelay time設定) の合計となります。  
Delay time設定可能な値の範囲は、50msから1500ms (※)まで可能です。  
※再生機能のON/OFF、FEC機能のON/OFF入力するTSパケット (NULLパケットの割合) によって、動作可能なDelay time設定の範囲は狭くなります。

